

2.3 草木染の大島紬への利用に関する研究

杉尾孝一, 満留幸夫, 仁科勝海, 瀬木秀雄※

(※大島紬職業訓練校)

Studies of Dyeing to Ohshimatsumugi by Natural Vegetable
Kouichi SUGIO, Sachio MITUDOME, Katumi NISHINA and
※Hideo SEKI

(※Ohshimatsumugi Vocational Training School)

昨年に引きつづき南薩地方に栽培されている香料植物、レモングラス、パチュリー、芳樟の蒸留残渣及び、本来からの大島紬用植物染料、シャリンバイを用い、麻の葉模様の絣織物を試作し、絣のできばえ、色相、配色、増量、染色堅ろう度、風合などについて、製品としてのできばえを検討した。

その結果、本年度の試作品は色相として、大変鮮明さにすぐれ、又風合、絣のできばえも良く、柄ゆきのモダンな作品となった。

1. はじめに

本年度は香料残渣のみで染色した絹糸と本来のシャリンバイ泥染糸を組合せた絣織物を試作し、構図、配色、絣のできばえ、風合、色相などについて検討したので以下報告する。

○消石灰(食品添加物用, 古手川産業)

2.2 実験方法

2.2.1 色素の抽出および染色液の調整

○レモングラス

蒸留後の葉4kgに6倍量の蒸留水を加え、2時間煮沸後、ろ過し、染色液15lを抽出し、試験液とした。

○パチュリー

蒸留後の葉5kgに2倍量の蒸留水を加え、2時間煮沸後、ろ過し、染色液5.2lを抽出し、試験液とした。

○芳樟

蒸留後の葉4kgに6倍量の蒸留水を加え、2時間煮沸後、ろ過し、染色液18lを抽出し、試験液とした。

○シャリンバイ

シャリンバイの樹皮及び木質部をチップにしたもの10kgに8倍量の蒸留水を加え、8時間二重釜にて煮沸後、ろ過し、染色液15lを抽出し、試験液とした。

2.2.2 染色方法

2. 実験材料および方法

2.1 実験材料

2.1.1 織物原料

- ・経糸…絹練然糸38g付/2500mS300T/M
- ・緯糸…つむぎ糸280中相当
- ・絣筵…つむぎ糸(280中相当)を絹糸で締めて絣筵にしたもの

2.1.2 草木染料

- レモングラス(香料蒸留残渣)
- パチュリー (#)
- 芳樟 (#)
- シャリンバイ(大島紬用)

2.1.3 媒染剤

- 硫酸銅(試薬一級)
- 泥土(本場大島紬の里)

2.2.1にて調整した各液に練絹糸、つむぎ糸、 絣を浸漬し、次の方法で染色した。

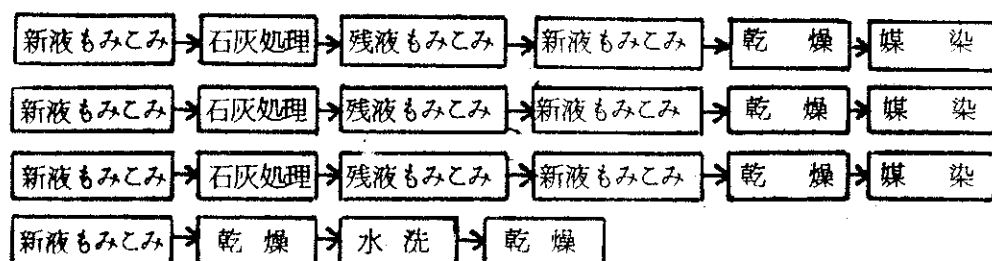


図1 染色工程

○染色条件

①染色時間 新液もみこみ 10分
残液もみこみ 5分
石灰処理 5分
媒染処理 10分

② 浴比 1 : 10

③ 石灰濃度 10 g/l

④ 媒染剤濃度 硫酸銅 2 g/l

3. 測定

3.1 発色状況の検討

2.2.1, 2.2.2で染色した染色絹糸5種、および絣1種について発色状態を調べた。

3.2 染色堅ろう度試験

2.2.1, 2.2.2で染色した染色絹糸および絣糸について、摩擦試験、耐光堅ろう度試験を行った。

注1. 耐光堅ろう度試験は島津製作所製, FA DE-Tester CF-20 S型を使用し、ブルースケール併用のもとに20時間露光し堅ろう度を等級で示した。

注2. 摩擦堅ろう度試験は昭和重機製、学振型染色物摩擦堅ろう度試験機を使用し、JIS-L0849-1971によって摩擦試験(乾燥)を行い、グレースケールをもって堅ろう度を等級で示した。

3.3 増量率の測定

2.2.1, 2.2.2で染色した染色絹糸5種、および絣1種について、染色による増量率を染色前の重量の絶乾に対する百分率で表わした。

3.4 染色糸および織物の風合などの検討

2.2.1, 2.2.2で染色したもの、および織物について、染色による毛羽の発生の有無、手触り、光沢の良否などについて検討した。

3.5 絣の染色などについての検討

2.2.1, 2.2.2で染色した絣について、十字の切れ、絣の汚染の状態について検討した。

4. 織物の試作

麻の葉模様の図案を用いた草木染絣織物を試作し、製品のできばえ、生産工程での問題などについて検討した。

4.1 試作用図案・設計

- 図案 あさ柄, 14算, 73品
- 密度 経糸: 26本/cm 緯糸: 18本/cm
- 重さ 150 g/cm, 箆および引込み 16羽/cm 2本入
- 組織 平織

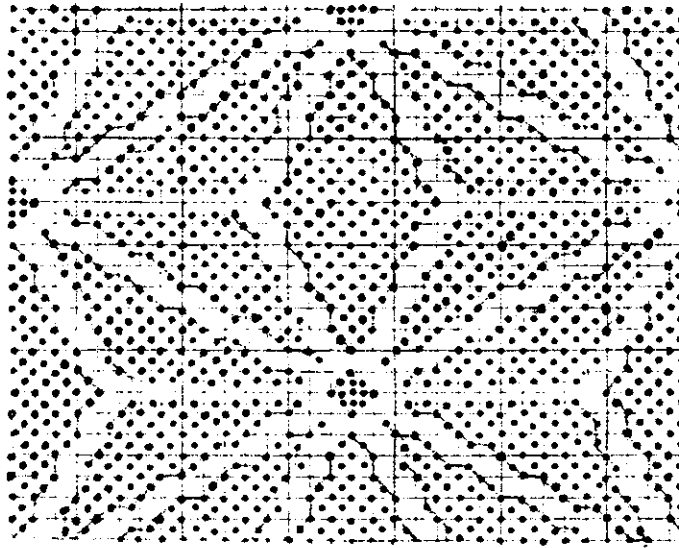


図 2 麻の葉図案

4.2 染色加工

○経糸はシャリンバイ、泥土で茶黒に染色したもの、および芳樟、硫酸銅で茶に染色したものを、仕上用糊剤としてカラギナンを用いた。

○地緯糸は芳樟、レモングラス、パチュリー、硫酸銅で染色したものを、
○絁緯糸は芳樟、硫酸銅で染色した絁糸を用いた。

5. 実験結果及び考察

5.1 染色物についての試験結果は表1のとおりであった。

表 1 試 験 結 果

№	植 物 名	媒染剤	色 相	耐光堅ろう度	摩擦堅ろう度	増量率	風合, 絁など
1	ジャリンバイ泥染糸	泥土銹	茶 黒	4 級以上	3 級	39.6%	柔軟
2	芳 樟 (絹然糸)	硫酸銅	金 茶	4 級以上	4 級	13.1%	特に柔軟
3	芳 樟 (真 綿)	"	金 茶	4 級	4 級	7.1%	柔軟
4	レモングラス(真綿)	"	裏葉色	4 級以上	3 - 4 級	6.6%	柔軟
5	パチュリー(真綿)	"	オリーブ	4 級以上	4 級	6.1%	柔軟
6	芳 樟(真綿絁糸)	"	金 茶	4 級以上	3 - 4 級	13.2%	柔軟, 絁の きれ良好

5.2 草木染あさ柄反物 1 反

草木染ネクタイ生地 1 反を試作した。

5.3 本年度は香料の蒸留残渣を用いて染色したが、昨年の生葉で染色したものと、ほとんど同じ色相に発色し、染色堅ろう度も優秀であっ

た。

5.4 麻の葉模様の織物については、風合や絁の
できばえも良く、染上りが大変鮮明で、緯糸
に用いたレモングラス、パチュリー、芳樟の
色がそれぞれ、うす 緑 オリーブ、金茶の調

和のとれた縞模様をつくりだした。又経糸にはシャリンバイ泥染と芳樟染が真中から二等分されて明暗のはっきりした柄ゆきのモダンな作品となった。

6. おわりに

今後は、香料植物染料のもつ味わいをいかした

男物の反物なども検討していきたい。

参 考 文 献

杉尾孝一，満留幸夫，仁科勝海，石原 学

鹿工試年報 27, 66(1981)